

帯広畜産大学同窓会報

第30号 令和5年9月 帯広市稲田町西2線11番地 帯広畜産大学内 帯広畜産大学 同窓会事務局発行

会長挨拶

帯広畜産大学同窓会会長
西田 譲
(昭和51年草地)



コロナ禍が明けて以前の生活に戻りつつある中、同窓生の皆様にはお元氣でご活躍のこととお喜び申し上げます。

また、日頃より同窓会活動にご理解とご協力をいただいておりますことに心から感謝申し上げます。

昨年11月に九州沖縄同窓会に、本年6月には関東同窓会にお伺いしました。両会とも多くの参加者のもと懇親会は大盛会で、各地で活躍されている同窓生のお話を聞くとともに、碧雲寮の先輩や同期生に再会することができ、大変楽しく嬉しい時間でした。ありがとうございました。

関東同窓会の総会では、萬場光一先輩（昭和41年獣医）を同窓会表彰規定に基づき同窓会功労者として表彰させていただきました。他の地区においても同窓会の発展に貢献いただいている方がいらっしゃると思います。表彰規定は、「同窓会長及び支部長の役職にあった者並びに本会もしくは支部会の発展に著しく寄与した者」に感謝状を贈呈する内容です。各地区からの同窓会功労者表彰の推薦申請をお待ちしています。

また、地区役員の皆様から活動のご苦勞についてもお話を伺いました。同窓会としても各地区同窓会との連携や情報提供について一層の取組みが必要と感じたところです。そうした中、同窓会及び各地区同窓会の諸活動を支援することを目的に、本年4月1日に大学の企画総務課に同窓会支援室が設置されました。大変ありがたいことで、長澤学長に感謝申し上げます。現在、同窓生への情報提供や同窓会事務局体制などについて支援室と一緒に検討しているところです。同窓会の活性化に向けて一つ一つ改善していきたいと考えています。

大学基金運営委員会に出席しました。同窓会としても同窓生の皆様に大学基金への寄附をお願いしている

ところですが、令和4年度の同窓生からの寄附は290件、全体の46.6%を占めており、多くのご協力をいただいていることが報告されました。心からお礼を申し上げます。今の時代も経済的な事情により苦勞している学生は少なくないようです。基金の奨学生と授業料免除学生の感謝の言葉も報告されました。一部紹介します。「支援をいただいたおかげでアルバイトに時間を費やすことなく学業に専念することができた」「卒業後は社会人としてこの基金奨学金を支える一員になりたい」。意欲と能力のある後輩たちが学びの機会を諦めることがないようにしたいものです。今後とも基金へのご協力をよろしくお願いいたします。

最後に、同窓生の皆様のご健康と益々のご活躍を祈念しますとともに、同窓会に対して引き続きお力添えをいただきますようお願い申し上げます。10月7日にホームカミングデーが開催されます。また、同日に同窓会総会も開催します。多くの同窓生の皆様にお会いできることを楽しみにしています。

大学近況報告

帯広畜産大学長
長澤 秀行
(昭和53年獣医)



昨年の4月に再び学長職を拝命して1年半が過ぎました。コロナ禍に翻弄された3年間の影響は大きく、行動制限が緩和されても、いろいろな事柄を依然のように戻すことに苦戦しています。でも、今年3月にマスク着用が個人の判断に委ねられ、5月に感染症法の位置づけが5類に分類されたことたこともあって、7月1-2日に開催された第79回寮祭は、4年ぶりに一般市民の方々も参加して、盛会となりました。細川錦市委員長を中心に、川村真路碧雲寮長、陶山真那萌宥寮長を含む実行委員会メンバーの47人は大活躍でした。盛りだくさんな企画の中には、とろサーモン、スクランブル、アライヒカリ、ゴールドルールズ、三拍子（私には馴染みのない芸人さんたちです）を迎えて、

関東同窓会の近況

関東支部長

澤田 拓士

(昭和45年獣医)



コロナ禍が完全に明けたわけではありませんが、今年の年賀状に「新型コロナウイルス感染症もそろそろインフルエンザ並みにすべきですね」と綴った通り、漸く人々が自由に行動できるようになりました。

まずは朗報です。関東同窓会会員の佐々木貴正さん(H8 獣医, 前国立医薬品食品衛生研究所, 元動物医薬品検査所)が今年1月母校の獣医公衆衛生学担当教授に就任されました。大変喜ばしく、今後のご活躍を期待致します。

2023年度の関東同窓会総会・懇親会は、去る6月18日(日)12時からアリスアクアガーデン銀座店で開催しました。昭和34年から平成25年卒業の会員53名が出席し、来賓として大学から長澤秀行学長(S53 獣医)並びに野並雅章学長補佐兼同窓会支援室長, 同窓会本部から西田 譲会長(S51 草地), 岸本 正副会長(S55 農工)並びに島田謙一郎事務局長(H4 家畜生産)の5名のご臨席を賜りました。

初めに、近時に逝去された6名の会員に対し、ご冥福を祈り全員で黙祷を捧げました。その中で、副会長の尾形眞二さん(S39 獣医)は長く関東同窓会の運営に尽力して下さいました。

総会は、細川幹事長(S48 獣医)の司会の下、澤田会長の挨拶の後議事に入り、加藤 博幹事(S45 酪農)の議事進行で各議案が原案通り承認されました。



席上、長年関東同窓会の発展に貢献された萬場光一前会長(S41 獣医)に西田会長から本部同窓会会長感謝状が贈られました。

総会后、長澤学長から、昨年4月にスタートした3大学(帯広畜産大学, 小樽商科大学, 北見工業大学)の経営統合について特別講演を頂きました。学長は、



経営統合の根拠と意義, 実現までの経緯, 今後の展望と将来構想などを熱く語って下さいました。

引き続いての懇親会



では、喜来幹事(H17 畜環科)の開会の言葉に続き、西田同窓会長から学内に同窓会支援室が設置されたことなど同窓会の現況を報告して頂くとともに、乾杯のご発声を頂き、懇親の宴に入りました。乾杯は、今年も学長からの差し入れて、学内の酒蔵「碧雲蔵」で学生が仕込んだ純米吟醸「碧雲」で行いました。

宴は、出席者最年長の野川さん(S36 獣医)から関東同窓会創設時の話、最年少の千葉さん(H25 畜産科学), 女性で初めて出席された大串さん(H18 畜産科学)から同窓会参加の喜び、その他多くの方々から挨拶の言葉があり、テーブル毎の懇親も大いに盛り上がりました。

まだまだ名残惜しい中、天尾幹事(S51 酪農)の音頭と細川幹事長のハーモニカ伴奏で、全員で肩を組んで帯広畜産大学逍遥歌を高らかに合唱、最後に、柏葉幹事(S53 農産化)の閉会の言葉で盛会裏にお開きとなりました。

来年の総会・懇親会は2024年6月16日(日)12時から開催の予定(会場は未定)です。特別講演は、福島県飯舘村前村長の菅野典雄さん(S45 草地)に「まideaの力」や「東日本大震災」について話して頂きます。

非会員の入会を歓迎します。ご連絡をお待ちしています。

事務局：細川幹事長

(090-9810-2620 又は shuko1122hosokawa@ybb.ne.jp)

岡山同窓会の近況

岡山支部長

進藤 省一郎

(昭和36年酪農)

生かして頂いております。

畜大卒で一番いい加減で無責任である支部長と自覚している。鈴木直義学長の命により岡山支部が誕生したのに、幹事に全ておまかせ、座るだけの長であった。お一人は広島県、お一人は大阪に転出した。家が岡山にあるから、その内に帰って来るだろうと思いコロナにかまけて休眠中、恥かしや、何とかしたいと思って



いる。一筆書けとの依頼があった。○36年卒、現在86才、口だけ達者。

日本の国に忘れられ、消され、話題にも上らない島。樺太の事を記しておきたい。山の幸、砵山、石炭、森林。海の幸、サケ、マス、ニシン、ウニ、カニ、こんぶ。丘の幸、じゃがいも、小麦、豆、宝の島であった。私は樺太最北の町敷香で終戦を迎えた国民学校の2年生であった。ツンドラ地帯で冬には-30度に成る寒冷地トナカイの世界である。クラスには色々な人がいた。ギリヤーク人、犬ぞり。オロッコ人はトナカイぞり。アイヌ人は箱ぞり。日本人は馬ぞり。冬に成るのが楽しみであった。先住民と云われる人は、オタスの杜（もり）が生活の地であった。学校では日本語、家に帰る

と違った言葉であったが皆んな仲良かった。

アイヌ人と碧雲寮時代にバイト（穴掘）先で知り合った。超貧乏人は肉体労働一日500円、一般のバイトは250円であった。重機の無い時代に畜大建設の穴掘をした人も居た。

昼めしは一緒に食べる。私達は寮でにぎりめしを作ってもらった。おにぎり2コたくわん2切、針金（小魚のつくだに）少々だけ。米6麦2外米2のおにぎりはうす皮の中で一コに成る。アイヌの人達は飯合に銀しゃりにサケ。あんちゃん、そんなの食って力を出すんか、と自分のサケを分けて下れた事あり、穴掘りで石が出たら場所を換って下れた事あり、プロ意識強く優しかった。その時、心のどこかで消る民族と思った事を思い出す。昔々の話をとじる。

○オホーツク支部総会

日 時 令和5年11月11日(土) 午後2時より

場 所 北見市内のホテル

連絡先 オホーツク支部事務局 河原康司(S57化学卒)

メール yasushi@train.ocn.ne.jp

○新潟県支部総会

日 時 令和5年11月12日(日) 午後2時半より

場 所 アートホテル新潟駅前

新潟市中央区笹口1-1 025-240-2111

<https://www.art-niigata-station.com/>

連絡先 新潟県支部

事務局長 遠山 潤 (S63獣医院卒)

メール tooyama@cb4.so-net.ne.jp

○九州・沖縄支部総会

日 時 令和5年11月25日(土) 宴会 午後6時より

会 場 矢太楼 電話095-828-1111

長崎県長崎市風頭町2-1

連絡先 九州・沖縄支部

事務局長 赤木 信義 (S48工学卒)

メール nobakagi@gmail.com

会員の声

獣医41年卒業 大クラス会

事務局

樋 口 脩

(昭和41年獣医)

平成28年の第3報以来久し振りの投稿です、卒後50周年を帯広市（ふくいホテル）にて開催し平成29年神

戸市開催（幹事；横幕胤直氏・開業）、令和元年札幌市開催（第一ホテル 幹事：山田明夫、高橋俊之、濱崎裕、福永伸、高島滋、松田稔）、令和2年帯広市で計画するも新型コロナのため急遽中止となる。令和4年に近況報告として、クラス会全員の近況をまとめ「大クラス会の栞」と「碧雲蔵」を全員に配布を致しました。令和4年にコロナ感染症も下火との判断と全員が八十路前後とのことから、最後の「宴」を令和4年10月12日札幌で開催を決めました。当日は神戸から横幕夫妻・盛岡から横井夫妻・飯島（富士吉田市）・萩原（鎌倉）・萬場（神奈川）が出席し総勢17名が集まることができました。37名卒業し、消息不明者3名鬼籍に入

帯広畜産大学獣医学科昭和41年卒業 大クラス会



帯広畜産大学獣医学科 昭和41年卒業大クラス会 令和4年10月12日 於 ホテルポールスター札幌
左後列から松田稔・濱崎 裕・三城恭彦・服部健治・新岡 翼・山田明夫・浪越靖政・福永 伸・白波瀬稔
前列左から樋口脩・横幕夫人・横幕胤直・横井耕一・横井夫人・萩原 茂・飯島 武・萬場光一

ったもの10名、(7/19現在)闘病中・急用の方等々いたとはいえ、かなり集まったと、一同感激いたしました。

私達の大クラス会は物故者の黙祷に始まり、乾杯し互いの無事健康を確かめ合い、若き時代を懐かしみ60年を一気に遡りそして、逍遙歌で締めくり終了致しました。

今後は、年1回の近況報告の取りまとめをし、都合が良い時季など見極めながら、会う機会をさがしてまいります。

「プラントベースで食資源の課題解決」 と「中国駐在よもやま話」

不二製油株式会社

開発統括部門 市場ソリューション第二開発部

中 平 一 志

(生物資源化学科 食品工学研究室 平成12年卒業,平成14年修了)

畜大では、石橋教授のもとで化工でん粉について研究させていただきました。その関係で、食品の中間原料を取り扱うメーカーに興味を持ち、新卒では中国地方にある某食品会社に入社しました。そこを若気の至り(笑)で退職し、今の会社には派遣社員を経ってから正社員となり、19年目になります。

今の会社は、「パーム・カカオ・大豆」という3つの基礎原料から、「植物性油脂・チョコレート・乳発酵・大豆加工素材」という4つの事業を営んでおり、

私は主に大豆関連事業に従事してきました。食品の中間素材の会社で対象顧客が企業様なので、消費者の方が名前を知ることにはないですが、ほとんどの消費者の方が間接的に弊社の素材を食べたことがある、そういった会社です。

最近話題の「大豆ミート」や「プラントベース」と呼ばれる食品の原料にも弊社の素材が広く利用されています。

人間の体にはたん白質が必須ですが、そのたん白源は一般的に牛肉などの畜肉由来か、大豆などの植物由来かよります。畜肉は穀物を資料として作られるため、その過程で大量の水を消費し、二酸化炭素を排出します。牛肉は大豆に比べると、85倍の二酸化炭素と8倍の水を消費するとされています。

我々のミッションは、上述のような食資源の課題に対して、エネルギー効率が高く、おいしい植物性の食品をお客様に届けることで、地球と人が持続的に発展できる社会を築く一助となることにあり、やりがいのある仕事です。

話は少し変わり、入社後の勤務地をご紹介しますと、神戸(2004年)⇒つくば(2004年)⇒山東省(2005~2008年)⇒つくば(2009年~2017年)⇒東京(2017年~2018年)⇒山東省(2018年~2020年)⇒上海(2020年~2023年)⇒つくば(2023年4月~)と、異動を経験しており、在籍19年のうち、9年は中国に駐在していました。また、2009年~2017年の間では、出張ベースでアメリカでの仕事も経験しました。

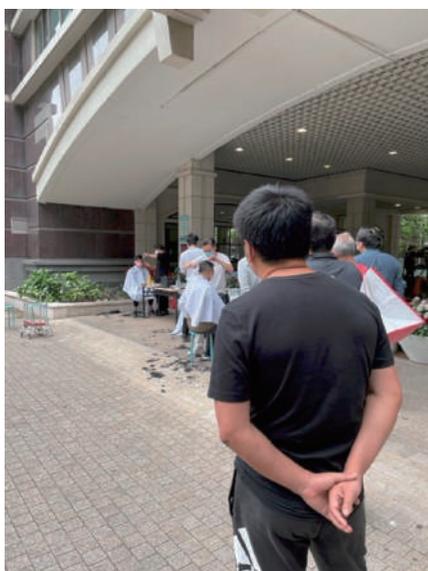
中国では、少し時間を空けて2回駐在しており、この間の中国の発展ぶりはすさまじいものがあります。物価でいうと、この05年～08年当時、山東省のローカル食堂で食べていたラーメンが1杯2元、18年～23年当時ではこれが12元になりました。元換算で6倍ですが、人民元⇄日本円の為替も変化しており、05年は13～14元、最近では20～21元ですので、約1.5倍です。すなわち、日本人の立場からすると、 $6 \times 1.5倍 = 9倍$ になっているということです。

皆さんもご存じのとおり、残念ながらこの期間、日本人の給料は増えていませんので、日本人が相対的に貧しくなってしまうことを実体験しています(苦笑)。

文化的には、中国はアジアで、地政学的には日本と非常に近いですが、その考え方は日本人というよりは大陸的で欧米に近い感覚を持っています。合理主義で、結果を重視します。日本人には負けの美学がありますが、中国にはそういった考えはありません。勝てば官軍。したがって、ビジネスでも、場合によっては官民一体となって産業を育成し、いかに速やかに勝つか、という視点を持っているように感じます。

また、それを支える教育も非常に重視されています。先日、ある食品系で有名な大学にお邪魔したところ、1つの学科で研究費が3億円(日本円相当)あると聞いて愕然としました。産学連携も非常に進んでおり、企業の投資や寄付も積極的に行われています。最近では、より良い研究環境をもとめて、日本の大学の先生が中国に来られるケースもあり、今後の日本の教育環境とそれに紐づく企業の競争力に危機感を持ちました。

他にも思い出深い経験は何といても上海でのコロナ/ロックダウンです。家族3人でマンションの扉から一步も出れないのが1か月/さらに、マンションの敷地内から一步も出れないのが1か月続き、計2か月以上、不自由な生活を経験しました。不自由な中ではありましたが、この期間、(同じマンションで同じ境遇の)中国の方々は大変親切でしたし、日本人同士の結びつきも非常に強くなり、良い経験をしました。写真は、2か月ぶりに2時間の外出を許されて、



(感染予防のため、室内ではできないので)マンションの外で、ボランティアの散髪に並んでいる様子です。美容室の方々が無料で髪を切ってくれました。

最後に、そういった中国で働

く畜大のつながりをご紹介したいと思います。私が2度駐在していた山東省の拠点は、山東省煙台市萊陽市という町で、人口が100万人弱という街ですが、そこに住んでいる日本人は10数人しかいません。なんと、そこにほぼ同時期に畜大の同級生、しかもとなりの研究室の友人が駐在していました!もう、これは奇跡としか言えません!名前は下代さん、碧雲寮の寮生でやはりハードシッポ適正が高いと思われたのか(笑)、彼も2度目の中国駐在です。



(写真右: 下代さん 左: 中平)

畜大は単科大学で人数も少なく、人の顔と名前が分かる(規模感の)大学です。その分、同じ大学というだけで非常に親近感を感じられる、そんな大学だと思っています。近しい業界の方は是非、お声がけいただき、交流させていただければ幸甚です。

P.S. 私の奥さんは、畜大OBで、畜大元教授の娘さんです。何かと畜大と縁があります(笑)。

肉製品に魅せられて

菖蒲谷牧場

山川 恵美

(平成22年畜産食品科学ユニット卒業、平成24年食品科学専攻修了)

過去3年間、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う行動規制のなか続けられてきた活動が、制約が解けたことにより活気を取り戻しつつある事を感じています。皆様はいかががお過ごしでしょうか。





私の両親は岐阜で養豚・食肉加工業を営んでいます。両親の作るソーセージが大好きだった私は、食肉加工業を継ぎたいと考え、島田教授の畜肉保蔵学研究室の扉をたたきました。両親から学んだ表面上の知識が、科学的根拠を基にした知識に変わっていき、私の自信、そして基盤となる経験を積めたことに感謝しています。

そんな島田教授から助言を頂き、大学院卒業後の2014年、そしてコロナ渦直前の2018年から2019年にかけて、イタリアのパルマ市に留学していました。

生ハム工房、サラミ工房、自家製肉製品が売りのレストラン、養豚場、精肉店等、とにかく豚肉に関わる仕事に就き、現地の技術を肌で感じながら学ぶことができました。肌で感じながら、と表現しましたが、本当に文字通り、見て、聞いて、盗む、の繰り返しでした。というのも、私がお世話になったのは、「生ハム一筋!」というような、小さな個人営業の、職人気質な方ばかりでした。その為、信じられないほど、感覚で作業しているのです。「お肉がこんな感じになったときに、この作業をすると美味しくなるんだよ、理由

は分からないけどね」なんて言いながら、理にかなった作業をしているのです。その感覚を少しでも覚えたい私は、タイミングを見計らってメモを書いていた。びっしり書いたメモを覗き込まれ、「日本人は真面目すぎるからダメなんだよ」なんて怒られたものです。

そんな感性を大事にしているイタリアの食文化に魅了され、豚肉製品だけでは満足できなくなってしまった私は、ワインのソムリエ（イタリアソムリエ協会認定ソムリエ）の世界に足を踏み入れてしまいました。お料理とワインはお互いの良さを高める大切なパートナー、知れば知るほど、奥の深さに夢中になってしまいます。

ワインの世界はあまりにも煌びやかで、以前は気後れしていました。ですが、ワインの世界に触れたことで、食料生産に携わる者として、自らの生産物に対する無限の可能性を感じることができるようになりました。

現在は兄とともに両親の経営を継ぎ、兄は豚の飼育を、そして私はハムソーセージの製造、精肉直売を行っています。これからも探求心を忘れることなく、精進していきたい所存です。



お 知 ら せ

総会のご案内

令和5年8月吉日

帯広畜産大学同窓会会員各位

帯広畜産大学同窓会会長
西田 謙

記

日 時：2023年10月7日(土) 午前9時45分より

場 所：帯広畜産大学 総合研究棟1号館 E2503会議室

(正面から入り正面の建物です。玄関から入り正面階段を上がり2階右側です。)

今年度もホームカミングデーが開催されるため、場所が会議室となっていますので、ご注意ください。また例年開催しております懇親会は、ホームカミングデーでの開催となります。

畜産フィールド科学センター 新牛舎・搾乳舎が完成

令和5年に畜産フィールド科学センターの新しい牛舎・搾乳舎が完成しました。

同センターは建設後48年が経過し、建物基本性能の低下や老朽化が著しく進行しているため、センター全体の段階的な再開発により、施設群の集約化を行うことで、安全で機能的な教育研究施設とすることを目的としています。

【新施設のコンセプト】

- 様々な機能を持つ施設群を徹底的に集約化し、機能別にゾーン配置するとともに、様々な先端畜産技術を駆使することで、機能性の充実と作業効率及び衛生管理を強化し、将来を見据えた「次世代教育モデルファーム」として計画
- 省エネや太陽光発電による創エネを導入し、ZEB（ネッ



▲完成した新牛舎・搾乳舎の外観



▲新牛舎内観の完成イメージ

ト・ゼロ・エネルギー・ビル）の認証施設として環境に配慮した施設

- 搾乳設備の更新や自動給餌機導入による自動化などにより、作業の省力化を図る
- 多様な学生・研究者や異なる研究分野、地域・産業界との「共創」の促進等により、教育研究の高度化・多様化・国際化、地方創生や新事業・新産業の創出に貢献する「イノベーション・コモンズ（共創拠点）」の一役を担う

今後は夏頃に新牛舎へ牛が移動し、秋頃に機械等が搬入される見込みです。令和5年7月29日（土）に開催された令和5年度オープンキャンパスでは、新施設を活用して「搾乳体験」が実施されました。

馬術部が第65回全日本学生賞典総合馬術競技大会において、19年ぶりの表彰台となる団体第3位に輝く

令和4年11月2日（水）～6日（日）に三木ホースランドパーク（兵庫県）で開催された全日本学生馬術大会2022の第65回全日本学生賞典総合馬術競技大会において、本学馬術部が団体成績で19年ぶりの表彰台となる第3位に輝きました。また、個人成績では小代智貴さん（共同獣医学課程3年）が第8位、小野瀬北馬さん（畜産科学課程4年）が第9位という好成績を収めました。

全日本学生馬術大会2022では、障害馬術、馬場馬術、総合馬術の3大会が行われ、全国から24大学（うち団体出場は14大学）人馬が出場しました。このうち、総合馬術は障害馬術・馬場馬術・クロスカントリーの3種目により競われる競技です。

馬術部主将の小野瀬さんは、団体成績について



▲表彰台での記念撮影

「これまで、団体成績は4年連続で第4位だった。今回第3位を獲れたのは、自分たちの努力もあるが、先輩方がトレーニングしてきた優秀な馬たちが残してくれた結果だと思う」と喜びを語りました。また、小代さんは個人成績について「一年間やってきたことが結

果になって安心した。ほっとしている。」と安堵の表情を浮かべました。

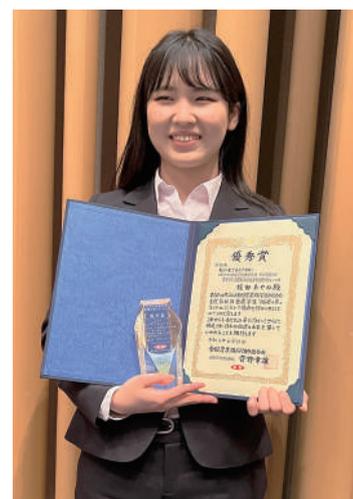
新主将となる野崎紗羅さん（畜産科学課程3年）は「今回の団体第3位の勢いに乗って来年も頑張っていきたい」と意気込みを語りました。

畜産科学課程3年の蛭田あやのさんが 「第16回全農学生『酪農の夢』コンクール」で優秀賞を受賞

畜産科学課程3年の蛭田あやのさんが「第16回全農学生『酪農の夢』コンクール」で優秀賞を受賞し、令和4年11月25日（金）に東京都で開催された表彰式において表彰されました。

このコンクールは、全国農業協同組合連合会（全農）が全国の酪農や畜産、園芸、農学等を学ぶ学生を対象に、「酪農の夢」をテーマにした作文・論文を募集したものです。今年度は全国34校から102作品の応募があり、最優秀賞1点、優秀賞3点、佳作5点が選ばれた中、優秀賞に入選しました。

受賞した作品タイトルは「私が私であるために」です。蛭田さんは、将来実家の牧場を継ぐために本学へ入学したものの、酪農家の娘というプレッシャーからアルバイト先での挫折を経験し、家業を継ぐことへの迷いから酪農を遠ざけようとした時期がありました。そうした時に出会ったある女性経営者からかけてもらった「私は私でいいんだよ。もっと酪農を楽しみなさい」という言葉で夢を取り戻し、将来は、祖父や父がこれまで繋いでくれた大好きな牧場を、心から酪農を楽しめる牧場にしていきたいと語りました。



▲受賞した蛭田さん

総合美術部の学生が 「第35回国際農業機械展 in 帯広 2023」の ポスター原画を制作しました

本学総合美術部の児玉結愛さん（畜産科学課程2年・部長）と土屋柚子さん（同・副部長）が、令和5年7月6日（木）～10日（月）に帯広市北愛国交流広場にて開催された「第35回国際農業機械展 in 帯広 2023」のポスター原画を制作しました。

「国際農業機械展 in 帯広」は、4年に一度開催されている農業機械展で、国内外の農業機械、施設、農畜産物の加工機械等に係るメーカーやディーラーなどが出展しています。今回、農業機械展事務局の十勝農業機械協議会より、十勝の農業を学ぶ学生にポスターの原画を描いて欲しいとの依頼があったことから、総合美術部による原画制作が実現しました。

原画は「十勝の農業」をイメージし、アクリル絵の具を用いて制作したもので、土屋さんがラフを作成し、仕上げは2人で協力して行いました。

土屋さんは「十勝を代表する作物や家畜、ドローンやトラクターなどの農業機械等を格子状に配置したパッチワーク調のデザインとし、デフォルメや色使いなどを工夫して『可愛らしさ』を意識しました。」とアピールポイントを語りました。

児玉さんは、「4年に一度の展示会で、色々なところから来場される多くの方々にはポスターを見ていただくと嬉しいです。今後も機会があれば挑戦したいです。」と語りました。

この作品は農業機械展のポスターやリーフレットに使用され、イベントの告知に活用されました。



▲総合美術部部長の児玉さんと副部長の土屋さん(左から)

事務局だより

同窓会支援室の設置について

昨年の春より長澤学長の新体制となり、同窓会支援が積極的になり、本年4月より大学の事務組織に同窓会支援室が設置され、専務職員4名が配置されました。現在、同窓会本部役員には同窓生の教員・職員が入って活動していますが、本来の業務もあるため、教職員だけで進めるには難しいこともありましたが、大学側に同窓会支援室が設置されたことを契機に、同窓会と大学がよりいっそう協力しあいながら同窓会組織が円滑に進められるよう事務局としてもやっていきたいと考えております。今回は大学側に同窓会支援室が設置されたことをご報告させていただきます。

ため、急遽、本年に椅子だけ同窓会予算で更新をすることといたしました。今後も逍遙舎を快適に使用していただくためにも使っていただいた場合にはできるだけきれいに使っていただくようお願い申し上げます。

問い合わせ先 企画総務課総務係 ☎0155-49-5216

soumu@obihiro.ac.jp

(平日 8:30-17:15)

同窓会名簿変更事項届の変更について

これまで会報に同封させていただいておりましたはがきの裏面にある「帯広畜産大学同窓会名簿変更事項届」ですが、毎年、会報を送付した後に、一部の会員の皆様から「同窓会名簿への掲載不可に印をつけたのに、また付けるのか」「住所を削除してくれ」などお叱りを受けておりました。同窓会名簿については平成23年度を最後に紙媒体の名簿は作っておりません。また、当面は紙媒体の名簿制作の予定はたっておりません。現状、皆様にこの名簿変更事項届の意味合いとしては、同窓会から会員の皆様に連絡するツールとなっています。そこで、誤解を招く名称を「記載事項変更

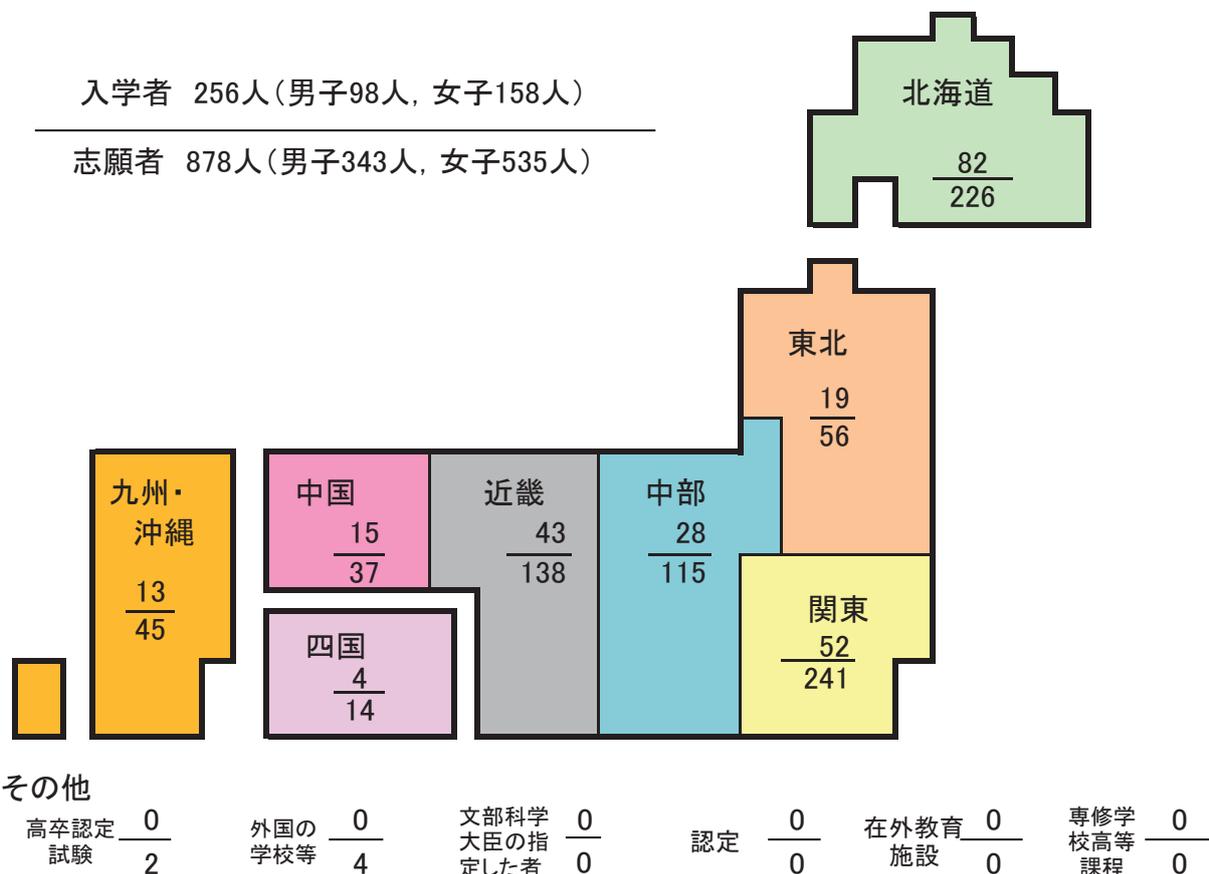
逍遙舎の使用について

「逍遙舎」は、同窓会、職員、学生が相互の懇親などの交流の場として使用できます。利用を希望される方は、大学企画総務課にお申込みください。なお、逍遙舎で使っている机や椅子が汚れて、劣化もしている

◆ 令和5年度学部地域別志願者・入学者状況

入学者 256人(男子98人, 女子158人)

志願者 878人(男子343人, 女子535人)



帯広畜産大学同窓会会則

昭和36年7月7日制定
平成5年10月16日改訂
平成7年10月14日改訂
平成9年10月18日改訂
平成11年10月23日改訂
平成13年10月6日改訂
平成19年10月13日改訂
平成25年10月5日改訂

第1章 総 則

- 第1条 本会は帯広畜産大学同窓会と称する。
- 第2条 本会は会員相互の連絡と親睦、並びに帯広畜産大学の発展に寄与することを目的とする。
- 第3条 本会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。
1. 同窓会報の発行
 2. 同窓会名簿の管理
 3. 帯広畜産大学の後援
 4. その他本会の目的を達成するための必要な事業
- 第4条 本会の事務局は帯広畜産大学内に置く。

第2章 会 員

- 第5条 本会は次の会員を持って組織する。
1. 正会員
 - 1) 帯広畜産大学及びその前身の卒業生
 - 2) 帯広畜産大学畜産学専攻科、大学院畜産学研究科、及び別科修了生
 - 3) 岐阜大学大学院連合獣医学研究科及び岩手大学大学院連合農学研究科の修了生で本学の講座に所属したもの
 - 4) その他代議員会で認めたもの
 2. 準会員
帯広畜産大学、大学院畜産学研究科、草地専修科、岐阜大学大学院連合獣医学研究科および岩手大学大学院連合農学研究科の学生
 3. 特別会員
帯広畜産大学およびその前身の同窓生以外の教員
- 第6条 会員は住所、その他の異動があった場合は、その都度本会に速やかに通知しなければならない。
- 第7条 会員の除名および資格の喪失
1. 本会の名誉を傷つけたり、本会の目的に反した行為を行った会員は、代議員会の決議により、除名とする。
 2. 当該会員が死亡したときは、その資格を喪失する。

第3章 役 員

- 第8条 本会は帯広畜産大学長を名誉会長に推薦する。
- 第9条 本会は次の役員を置く。会長1名、副会長若干名、事務局長1名、庶務担当3名、会計担当3名、名簿担当3名および監事2名。ただし、会長が必要と認めた場合は役員を追加することができる。役員会は前記の役員で構成し、本会の日常的な運営にあたる。本会は役員会の推薦により顧問を置くことができる。
- 第10条 会長及び副会長は代議員会において会員中より選出し、総会の承認を受けるものとする。その他の役員は役員会において会員中より選出し、代議員会の承認を受けるものとする。役員および代議員の任期は一期二年とし、再選を妨げないが、会長の任期は二期を越えないこととする。
- 第11条 会長は本会を代表し、会務を統理する。副会長は会長を

補佐し、会長事故あるときはその職務を代行する。

- 第12条 事務局長は庶務担当役員と共に会務を担当する。
- 第13条 会計担当役員は会費を徴収し、本会の資産の管理と予算の適切な執行を担当する。
- 第14条 名簿担当役員は同窓会名簿の管理を担当する。本役員は名簿の編集の円滑化を計るため、名簿編集委員を委嘱することができる。
- 第15条 監事は本会業務の執行及び会計の状況を監査する。
- 第16条 役員会は会長が召集しその議長となる。本会は構成役員の過半数の出席で成立し、会の議事は出席者の過半数をもってこれを決する。
- 第17条 役員会は支部等から若干名の代議員を委嘱し、重要な会務を審議するために役員と代議員とで構成する代議員会を置く。
- 第18条 代議員会は会長が召集しその議長となる。代議員の3分の2以上の署名により会議の目的事項を示して請求があったときは、会長は代議員会を招集しなければならない。代議員会は構成員の過半数（委任状を含む）で成立し、議事は過半数をもってこれを決する。可否同数の場合は議長の決するところによる。
- 第19条 代議員会は次の事項を審議する。
1. 予算及び決算
 2. 会費の変更
 3. 重要な資産の処分
 4. その他の重要な事項

第4章 総 会

- 第20条 総会は通常総会と臨時総会とする。通常総会は原則として隔年で開催するものとする。臨時総会は代議員会において必要と認めるとき、または10分の1以上の会員の署名により会議の目的事項を示して請求があったときこれを開くこととする。
- 第21条 総会は会長が招集し、その議長は会員中より総会で選出する。
- 第22条 次の事項は通常総会においてその承認を受けるものとする。
1. 会則の変更
 2. 役員人事
 3. 資産目録
- 第23条 総会の議事は出席会員の過半数をもってこれを決する。可否同数の場合は議長の決するところによる。
- 第24条 本会の経費は、会費、寄付金及びその他の収入をもってこれに充当する。

第5章 資産及び会計

- 第25条 本会の重要な資産を処分するには、代議員会の決議を経て、総会の承認を得なければならない。
- 第26条 会員は終身会費として入学時に20,000円を納めなければならない。但し、特別会員は会費を免除する。なお、準会員については、何らかの事情で中途退学した場合、本人からの請求があれば返金するものとする。
- 第27条 本会の会計年度は毎年10月1日に始まり、翌年9月30日に終わる。

第6章 支 部

- 第28条 本会はその目的を達成するために、必要があるときは支部を設けることができる。
- 第29条 支部を設置しようとする者は、その代表者から支部会則、役員等の資料を添えて本会に届け出なければならない。なお、支部活動については、支部会にゆだねるものとする。

付 則 この会則は平成25年10月5日から施行する。